# 報告 REPORT

## 令和３年度
## 札幌市医師会政策部との懇談会

常任理事・医療政策部長　荒木（あらき）　啓伸（ひろのぶ）

令和４年３月１日(火)、感染症対策に十分留意しながら札幌市医師会館内にて12年ぶりに開催した。医療政策における諸課題等における意見交換や情報交換等を目的に今年度は**表１・２**のとおり開催した。

札幌市医師会･当会それぞれから話題提供した後、意見交換を行い、リフィル処方では「薬の処方は原則１ヵ月毎だが、180日の長期処方も可能。患者視点では長期処方はメリットのある制度だが、長期処方が多いと厚生局に指摘されるため、対応に苦慮している」、「長期処方を活用している医療機関の多くは大病院であるため、大学病院等ではリフィル処方のニーズがあると思う」、「リフィル処方の普及には医療機関へのインセンティブが必要」、「リフィル処方は処方料を算定できる薬局にはメリットがある」、「薬局との連携について懸念している」、「現時点では明確なルールが示されていないため、運用方法次第でリフィル処方に対する見え方が変わってくると思う」などの発言があった。

また、外来機能報告と紹介受診重点医療機関では「地方においては紹介受診重点医療機関の要件を満たしても紹介率・逆紹介率の基準を満たすことが困難なため、手上げできない可能性がある」、「一般病床200床以上の病院のうち約40％、地域医療支援病院のうち約80％が紹介受診重点医療機関の要件を満たしている」、「紹介受診重点医療機関を希望する病院の認定は各圏域の地域医療構想調整会議において協議する予定である」、「紹介受診重点医療機関などは外来医療の機能分化を進めることが目的であるため、国が基準等を設定する際、医療機関のコストなどを考慮することはないと思われる」、「在宅はクリニック、入院は病院など国は今後も機能分化を進めるために役割に応じた診療報酬体系を構築していくと思われる」など、地域医療構想と医療データ分析センターでは「本センターが分析するデータは各圏域の地域医療構想調整会議で活用してもらうことを目的としている」、「各圏域が必要とするデータをヒアリングしたうえでデータを提供する予定」、「各圏域に提供するデータに病院名などが含まれる場合、内部資料として扱うことになる」、「全国的にも医療データについて専門的に分析できる人は少ないのではないか」、「分析用として多くのデータを収集するため、関係各所にデータ提供依頼を行っている」などの発言があった。

以上、各テーマにおいて活発な意見交換が行われ、有意義に終了した。このような機会をいただいた札幌市医師会政策部の皆様に厚く御礼申し上げます。

懇談会の様子

**表１　次第**

１．開　　会
２．挨　　拶
　札幌市医師会副会長　多米　　淳
　北海道医師会副会長　佐古　和廣
３．懇　　談
　《札幌市医師会》
　　テーマ：リフィル処方について
　札幌市医師会 政策部長　　上埜　博史
　《北海道医師会》
　　テーマ①：外来機能報告と紹介受診重点医療機関について
　北海道医師会 医療政策部長　　荒木　啓伸
　　テーマ②：地域医療構想と医療データ分析センターについて
　北海道医師会 医療政策部副部長 笹本　洋一
４．閉　　会

**表２　出席者名簿**

| | |
|---|---|
| **【札幌市医師会】** | |
| 副会長 | 多米　　淳 |
| 政策部長 | 上埜　博史 |
| 政策部担当理事 | 清水　研吾 |
| 政策部担当理事 | 百石　雅哉 |
| 政策部担当理事 | 近　祐次郎 |
| **【北海道医師会】** | |
| 副会長 | 佐古　和廣 |
| 医療政策部長 | 荒木　啓伸 |
| 医療政策部副部長 | 笹本　洋一 |
| 医療政策部員 | 寺本　瑞絵 |